

チアメトキサム (案)

1. 品目名：チアメトキサム (Thiamethoxam)

2. 用途：殺虫剤

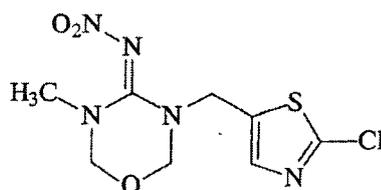
ネオニコチノイド系殺虫剤である。昆虫中枢神経系のニコチン性アセチルコリン受容体に作用を及ぼすと考えられている。

3. 化学名

(*EZ*)-3-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-5-methyl-1,3,5-oxadiazinan-4-ylidene(nitro)amine (IUPAC)

3-[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]tetrahydro-5-methyl-*N*-nitro-4*H*-1,3,5-oxadiazin-4-imine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式 $C_8H_{10}ClN_5O_3S$

分子量 291.7

水溶解度 4.1g/L (25°C)

分配係数 $\log_{10}P_{ow} = -0.13$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方は以下のとおり。

作物名、**使用時期**、**チアメトキサムを含む農薬の総使用回数**となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 10%チアメトキサム水溶剤（顆粒水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず いんげんまめ							3 回以内 (は種前の塗沫処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
ばれいしょ		テントウムシダマシ類	2000 倍	25L/10a	収穫14日前 まで		3 回以内
	アブラムシ類	750 倍					
てんさい	テンサイトビハムシ	50～ 200 倍	ペーパーポット 1 冊当たり 1L (3L/m ²)	定植前	1 回	苗床 灌注	1 回
	カメノコハムシ	50 倍					
	アブラムシ類	100 倍					
	テンサイモグリハナバエ	100～ 200 倍					
だいこん	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種前の作条混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
キャベツ		3000 倍		収穫3日前 まで			3 回以内
		セル成型 育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌 約 3～4L) 1 箱当たり 0.5L	100 倍	育苗期後半	1 回		灌注
はくさい	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫3日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)	

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数		
ブロッコリー	アブラムシ類	3000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、 散布は3回以内)		
カリフラワー				収穫7日前まで					
非結球 あぶらな科 葉菜類 (こまつな、ケール、 チンゲンサイを除く)		2000 倍		100～300L/10a	収穫3日前 まで		2回以内	2回以内	
こまつな								3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)	
チンゲンサイ					3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)				
レタス					3回以内 (粒剤の処理は1回以内、 散布は2回以内)				
ねぎ	ネギハモグリバエ	1000～2000 倍	100～300L/10a		収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
	にら				ネギアザミウマ			収穫14日前まで	3回以内
アスパラガス		収穫7日前まで							
わけぎ		収穫3日前まで		4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、 植付後は3回以内)					
トマト	コナジラミ類	2000 倍		100～300L/10a	収穫前日まで			2回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は合計1回以内、 散布は3回以内)
ミニトマト									
なす	アブラムシ類	3000 倍	100～300L/10a		収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は合計1回以内、 散布は3回以内)	
	コナジラミ類								
	シメキイロアザミウマ マメハモグリバエ	2000 倍							

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	
ピーマン	ミミキイロザミカ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)	
とうがらし類	アブラムシ類 コナカイガラムシ類	3000倍						
ししとう	マメハモグリバエ							
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	3000倍						
すいか	ミミキイロザミカ	2000倍						
食用へちま	アブラムシ類	3000倍						
にがうり	ワタアブラムシ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで		散布	3回以内	
メロン	アブラムシ類	3000倍	150～ 300L/10a	収穫前日 まで		散布	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)	
ほうれんそう	アブラムシ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫3日前 まで	2回 以内	散布	3回以内 (は種時の作条混和は 1回以内、 散布後は2回以内)	
オクラ				収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	
さやいんげん							散布	3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)
えだまめ		3000倍		収穫7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内	
うこぎ				収穫3日前 まで		散布	3回以内	
エンサイ		2000倍		収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
みょうが (花穂)	コナカイガラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布 但し花穂の発生 期にはマルチフ ィルム被覆によ り散布液が直接 花穂に飛散しな い状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫前日まで 但し花穂を収穫 しない場合にあって は開花期終了まで			
モロヘイヤ	ネギアザミウマ	収穫7日前 まで					
かんきつ	ゴマダラカミキリ成虫	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫14日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類	3000 倍					
	コナカイガラムシ類 ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類	2000～ 3000 倍					
	アザミウマ類 ロウムシ類 カメムシ類 ミカンバエ ミカンキジラミ	2000 倍					
りんご	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ	2000～ 3000 倍	200～ 700L/10a	収穫7日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
	シンクイムシ類						
なし	コナカイガラムシ類 カメムシ類	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類	3000 倍					

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
もも	アブラムシ類	3000倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	モモハモグリガ	2000～ 3000倍					
	シンクイムシ類 ミカネイロアザミウマ カメムシ類	2000倍					
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類	2000～ 3000倍		収穫7日前まで	2回以内		2回以内
うめ	カメムシ類						
おうとう	柿トウショウヨウハ	2000倍		収穫前日まで	2回以内		
いちじく	アザミウマ類						
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ						
	フタテンヒメヨコバイ						
かき	アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ	2000倍		収穫3日前まで	3回以内		
バナナ	バナナツヤソウムシ		収穫7日前まで				
マンゴー	アザミウマ類		収穫14日前まで	2回以内	2回以内		
アセロラ	アブラムシ類		収穫7日前まで				
グアバ (果実)	バンジロウツノ エグリヒメハマキ	2000～ 3000倍	200～ 400L/10a	摘採7日前まで	1回	1回	
茶	チャノキイロアザミウマ						
	チャノトリヒメヨコバイ コミカンアブラムシ ツマグロアオカスミカメ						
セージ	コナジラミ類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫21日前まで	3回以内	3回以内	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
水稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	穂揃期	1回	散布	4回以内 (移植後は3回以内)
かんしょ	アブラムシ類	6kg/10a	育苗期		株元散布	1回
	コガネムシ類	6~9kg/10a	植付時		作条混和	
さといも	アブラムシ類	6kg/10a				は種時
ばれいしょ		3~6kg/10a				
こんにゃく		6kg/10a	培土時 (但し、 出芽前まで)			
だいこん	アブラムシ類	4kg/10a	は種時		作条混和	3回以内 (は種前の作条混和は1回以内、散布は2回以内)
キャベツ	セル成型育苗トレイ (30×60cm、 使用土壌約3~4L) 1箱当り30g	株当り1~2g	育苗期 後半		散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計3回以内)
			株当り2g			
		株当り2g	育苗期 後半		株元散布	
	ハイマダラノメイガ	株当り2g	は種前		床土混和	
	アオムシ					
コナガ	培土1L当たり15g	は種前	株元散布			
はくさい	アオムシ	株当り2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 散布は3回以内)
	コナガ	培土1L当たり15g	は種前	床土混和		
	株当り1~2g	育苗期 後半	株元散布			
こまつな	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	作条混和	3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	
チンゲンサイ	アブラムシ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	定植時	1回	作条混和	3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、散布は2回以内)	
ブロッコリー	アオムシ コナガ ハイマダラノメイガ	株当たり 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、散布は3回以内)	
カリフラワー	アブラムシ類	株当たり 0.5g					
レタス	ナモグリバエ		培土1L当たり 15g		は種前	床土混和	3回以内 (粒剤の処理は1回以内、散布は2回以内)
非結球レタス	アブラムシ類	株当たり 0.5g	育苗期 後半		株元散布	1回	
	ナモグリバエ		培土1L当たり 15g		は種前		床土混和
ねぎ	ネギアザミウマ	6kg/10a	は種時		植付時	作条混和	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	ネギハモグリバエ	6~9kg/10a					
わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a					4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)
あさつき							
セロリ	ナモグリバエ	株当たり 2g	鉢上時	2回以内	土壌混和	2回以内 (鉢上時の土壌混和は1回以内、定植時の植穴処理は1回以内)	
トマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	定植時		1回		植穴処理
	コナジラミ類	株当たり 1g	育苗期 後半	株元散布		4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	
			定植時	植穴処理			3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は2回以内)
ミニトマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	定植時				

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
なす	ミナキイロアザミウマ マメハモグリバエ コナジラミ類	株当たり 1g	定植時	1回	植穴処理	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の植穴処 理は合計1回以内、 散布は3回以内)
	育苗期 後半		株元散布			
ピーマン	ミナキイロアザミウマ	株当たり 2g	定植時		植穴処理	4回以内 (定植時の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)
とうがらし類	アブラムシ類	株当たり 1g				
きゅうり	コナジラミ類 トマトハモグリバエ					
	すいか	アブラムシ類				
メロン	ハモグリバエ類 アブラムシ類 ミナキイロアザミウマ	株当たり 1g				
	ほうれんそう	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	作条混和	3回以内 (は種時の作条混和は 1回以内、 散布は2回以内)
れんこん	クイイクビアブラムシ	収穫14日前 まで		3回以内	湛水散布	3回以内
いちご	アブラムシ類	株当たり 1g	定植時	2回以内	植穴散布	2回以内

(3) 2.0%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1箱当たり 50g	移植前3日 ～移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に散布する	4回以内 (移植後は 3回以内)

(4) 21.4%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	5000倍	100～150 L/10a	収穫21日 前まで	2回以内	散布	4回以内 (移植後は 3回以内)

(5) 30.0%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
だいず	アブラムシ類 タネバエ	乾燥種子 1kg 当り 原液 6mL	は種前	1回	塗沫処理	3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)
えだまめ	ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ					
いんげんまめ	アブラムシ類					
あずき	タネバエ					1回

(6) 10.0%チアメトキサム・5%ルフェヌロン水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	ルフェヌロンを含む農薬の総使用回数	
みかん	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ	2000～ 3000倍	200～700 L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内	
かんきつ (みかんを 除く)	ゴマダラカミキリ成虫 チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ	2000倍			1回				1回
りんご	クワコナカイガラムシ ハマキムシ類 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ アブラムシ類	2000～ 3000倍			2回 以内				2回以内
茶	チャノホソガ チャノドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ヨモギエダシヤク チャハマキ チャノコカクモンハマキ	2000倍	200～400 L/10a	摘採7日 前まで	1回		1回	1回	

(7) 0.005%チアメトキサム液剤

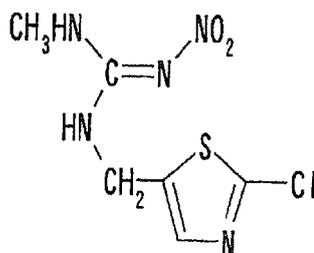
作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チアメトキサムを 含む農薬の 総使用回数	
きゅうり	アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は2回以内)	
なす	コナジラミ類					4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
トマト	アブラムシ類					4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)	
ピーマン			4回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計1回以内、 水溶剤及び液剤の散布は 合計3回以内)				
キャベツ			収穫3日前 まで				3回以内
かんきつ	コナカイガラムシ類		収穫14日前 まで				2回以内
うめ	アブラムシ類		収穫7日前 まで	2回以内			

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ チアメトキサム
- ・ (E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン (代謝物 CGA322704 (以下、クロチアニジン))



【クロチアニジン】

② 分析法の概要

含水アセトンで抽出、アセトンを留去後顆粒状多孔性ケイソウ土カラムおよびカートリッジカラムで精製し、高速クロマトグラフで定量する。

定量限界 チアメトキサム : 0.005~0.2 ppm

クロチアニジン : 0.005~0.2 ppm

(2) 作物残留試験結果

① 水稲

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.04、<0.04 ppm

クロチアニジン : <0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}

チアメトキサム：0.027、0.024 ppm
クロチアニジン：0.029、0.011 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5 kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.06、0.08 ppm
クロチアニジン：<0.04、<0.04 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.045、0.078 ppm
クロチアニジン：0.026、0.078 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.028、0.027 ppm
クロチアニジン：<0.04、0.04 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.045、0.070 ppm
クロチアニジン：0.054、0.046 ppm

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6 kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.50、0.26 ppm
クロチアニジン：0.04、0.02 ppm

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処

理 (50g/育苗箱) したところ、散布後 122、134 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、0.008 ppm

水稻 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 1 回育苗箱処理 (50g/育苗箱) したところ、散布後 122、134 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.04、0.06 ppm

クロチアニジン : <0.02、<0.02 ppm

水稻 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 1 回育苗箱処理 (50g/育苗箱)、0.5%粒剤を 1 回散布 (1.5 kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 1 回散布 (150L/10a) したところ、施用後 7~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.096、0.086 ppm

クロチアニジン : 0.064、0.076 ppm

水稻 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 1 回育苗箱処理 (50g/育苗箱)、0.5%粒剤を 1 回散布 (1.5 kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 1 回散布 (150L/10a) したところ、施用後 7~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 2.98、1.10 ppm

クロチアニジン : 0.11、0.08 ppm

②とうもろこし

未成熟とうもろこし (生食用子実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (200L/10a、300L/10a) したところ、散布後 7~42 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

③大豆

大豆 (乾燥子実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (150L/10a、300L/10a) したところ、散布後 6~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回散布、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回散布及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

④小豆

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回塗沫処理したところ、施用後126、143日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）1回使用及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.014、0.022 ppm

クロチアニジン：0.008、0.018 ppm

⑤いんげん

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.012、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.049、<0.005 ppm

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回使用、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回使用及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、175-200L/10a）を3回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.01、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.01、<0.01 ppm

⑥ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回

作条土壤混和 (9 kg/10a) 及び 10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (200L/10a) を 3 回散布したところ、施用後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : <0.005、0.100 ppm

クロチアニジン : <0.005、0.020 ppm

ばれいしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (6kg/10a) を 1 回作条土壤混和、および 10% 顆粒水溶剤の 750 倍希釈液 (25L/10a) を 3 回散布したところ、施用後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.02、<0.01 ppm

クロチアニジン : 0.02、<0.01 ppm

⑦ さといも

さといも (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (6kg/10a) を 2 回植穴処理したところ、散布後 30~45 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.14、0.039 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

さといも (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250L/10a) を 2 回散布したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.022、<0.01 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

さといも (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (6kg/10a) を 1 回植穴処理及び 10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (150L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 7~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.038、<0.01 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

⑧ かんしょ

かんしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 1 回作条土壤混和 (9kg/10a) したところ、散布後 112、117 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

かんしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (9kg/10a、

6kg/10a) を作条土壌混和処理を 1 回及び株元土壌混和処理を 1 回行ったところ、施用後 21~42 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.012、0.006 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑨こんにゃくいも

こんにゃくいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 1 回株元土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後 132~159 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.01、0.02 ppm

クロチアニジン：<0.01、<0.01 ppm

⑩てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2 例）において、10%顆粒水溶剤の 50 倍希釈液を 1 回灌注処理（1L/冊）したところ、処理後 150~170 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑪だいこん

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2 例）において、70%水和剤を 1 回種子粉衣（4.3g/1000 種子）したところ、粉衣後 66~80 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.009、0.012 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.006 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2 例）において、70%水和剤を 1 回（種子粉衣 4.3g/1000 種子）、0.5%粒剤を 1 回（作条処理 6 kg/10a）及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液（150L/10a）を 2 回散布したところ、施用後 7~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：1.320、0.247 ppm

クロチアニジン：0.254、0.137 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2 例）において、70%水和剤を 1 回種子粉衣（4.3g/1000 種子）したところ、粉衣後 66~80 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm